

鶴見区区政会議 平成 30 年度第 1 回こども教育部会議事録（要旨）

1 日 時 平成 30 年 7 月 2 日（月） 19 時 00 分～20 時 44 分

2 場 所 鶴見区役所 3 階 303 会議室

3 出 席 者

（委員）

前川部会長、猿渡副部会長、中田委員、藤本委員、宮川委員、山口委員、
米島委員、渡邊委員

（区役所）

野村副区長、中村教育担当課長、松井子育て支援・保健担当課長、
大川総務課教育担当課長代理、貴田保健福祉課子育て支援担当課長代理、
杉本総務課担当係長、吉岡総務課担当係長、日下保健福祉課担当係長、
藤本保健福祉課担当係長、當麻保健福祉課担当係長

4 議 題

- 1 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について
- 2 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について
- 3 その他

5 議 事

（1） 野村副区長開会のあいさつ

（2） 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について説明

➤ 委員からの質問・意見なし

（3） 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について説明

◇ 安心して子育てできる環境づくり

子育て支援の充実について説明

➤ 委員からの質問・意見等

・鶴見区の待機児童数や虐待児童数について平成 28 年度からどのように推移しているのか教えてほしい。

→ 待機児童数については、平成 28 年 4 月 16 名、平成 29 年 4 月 11 名、
平成 30 年 4 月 6 名となっており減少している。

待機児童とは別に、入所申込者から実際入所した児童を引いた入所保留児童という考え方があり、入所保留児童数は平成 29 年 4 月 116 名、平成 30 年 4 月 106 名となっており大きな変化はない。

この間、毎年、新しい園が開園し入所の受け入れ枠は増えているが、入所保留児童数は減少していないという状況である。

虐待児童数については、平成 27 年度 140 名、平成 28 年度 134 名、平成 29 年度 159 名と増加している。

- ・増加しているというのは、鶴見区として何もしていないということではないのか。

→ 気になる子どもがいたら通報するよう啓発活動を行っており、様々なところから通報がある状況から、顕在化しているものが増えていると考えている。顕在化したものに対し、区役所として早急な支援が必要と考えている。

- ・愛 Love こどもフェスタは来ることによって、子育てサロンに誘導することをめざして実施していると思うが、その場で子育てに役立つ情報を渡すだけではただのイベントとなってしまうのではないか。

→ 愛 Love こどもフェスタでは、各ブースで幼稚園・保育所の情報や子育てサロンの情報なども提供している。

子育てサロンに関して、5 月と 6 月でサロンの利用者数の増減について調査したところ、微増の状況である。

- ・つるみっ子ルームの利用者は偏っていないのか。

→ 偏っていないと認識している。

- ・待機児童は校区别で把握しているのか。

→ 校区别では把握していないが、住所別では把握している。来年度以降はお示ししていきたい。

- ・鶴見区では保育所（園）は増えているのか。

→ 32 園あり、うち 5 歳児までの園が 25 園で、0 歳児から 2 歳児までの園が 7 施設となっている。

- ・5 歳児までの 25 園のうち、グラウンドや講堂を持ったりしている園は把握しているのか。

→ 把握していない。

- ・講堂等を持っていない園は発表会等をする場合、どこかの施設を借りる必要がある。区民センターのホールを優先利用できないか。

→ 区民センターホール以外にも小学校の講堂や福祉会館などもあるが、区民センターホールについては利用規定を確認のうえ検討する。

- ・児童虐待について、個々の虐待の詳細も把握しているのか。

→ 個々のケースについては把握している。また、支援についても関係団体等を含めて検討し、対応している。

- ・児童虐待の啓発ポスターを貼っているだけでは効果はないと思う。

→ 虐待防止啓発は虐待通報の促進を主な目的として実施しているもので、実際に虐待を受けている子どもを早く見つけ、子どもの親と話をすることが重要である。

- ・虐待通報について確認を行った家庭に対して、配慮が必要なのではないか。

→ 周りの家庭に対して、当該家庭に誰が何をしに来たかはわからないように配慮している。

また、通報された家庭に対しては、虐待を前面に出さずに聞き取りを行う等、保護者の負担にならない対応を心掛けている。

今後も、保護者に寄り添った対応を行っていく。

- ・子育て講演会に児童虐待防止は含まれているのか。また、講演会に来ることができない人をどのようにして来てもらうかが問題である。

→ 子育て講演会に含んでいる。講演会に参加してほしい人をいかに参加していただくかを平成 31 年度の方向性に入れていく。

◇ 教育支援

教育支援の充実について説明

➤ 委員からの質問・意見等

- ・小学校の土曜日の行事に参加したところ教育活動サポーターの方と思われる方が教室内にいたが、保護者への紹介はないのか。保護者の安心ということなら紹介するべきではないか。課題として学校に聞いてほしい。

→ 学校に確認する。

- ・高校軽音ライブクリーンプロジェクトの参加校数等を教えてほしい。
 - 平成 30 年度は 27 校参加で、3 校は鶴見区内で他 24 校は大阪府外も含まれる。
 - 参加した高校生は達成感やボランティア活動、クリーン活動によって達成感であったりボランティア活動への意識向上は多くみられるが、鶴見区民の参加が少ないという課題がある。
 - 目的や目標を検討していく必要があるのではないかと考えている。

- ・高校軽音ライブクリーンプロジェクトは参加校を減らすより目的などを再検討していく方がいいのではないか。
 - 目的や目標設定を検討していく。

- ・青少年カーニバルの参加状況を教えてほしい。
 - 午前中のメチャハッピー祭は大阪府下の祭りで鶴見緑地を会場の 1 つとして実施しており大阪府下からの参加が多い。午後の部は鶴見区民だけである。

(4) 平成 30 年度鶴見区の実施（運営方針に新たに加わった項目）について説明

◇ 社会教育の支援

➤ 委員からの質問・意見等

- ・学び舎つるみに百歳体操のブースを設けてほしい。
 - 今年度については、区民センターが工事により使用できないため、区役所の会議室で実施する。そのため、場所の確保が難しかったので次回以降検討する。

- ・以前、仲間で行っている生涯学習では発表の場がないと聞いた。何か提案できる場所はないのか。
 - 区役所の 2 階に区民ギャラリーがある。そのような場所での発表は可能である。

- ・展示スペースについての広報はどのように行うのか。
 - 区の広報紙、ホームページ、フェイスブックなどを活用し広報していく。

- ・児童虐待は通報件数が多くても評価されない。虐待防止はあらゆる手段により地道に取り組むしかないと思っている。虐待は数字には表れない

ため、何をもって取組みを評価するのかがわからない。区としても評価方法について検討してほしい。

6歳までは子育て支援で6歳以降は教育支援に変わるような印象を受けた。中学校に入るくらいまでは平行に考えていく方がいいのではないかと思う。

「夢・未来」講座については、もう少し企業のメリットになるような形で企業を公募なりしていく方がいいと思う。

(5) 事務連絡